**釧路地域で絶滅が危惧される鳥類**

釧路とその周辺地域には、多くの希少動物や絶滅が危惧される動物が生息しています。この地域では、絶滅が危惧されている7種の鳥が、日本の天然記念物として保護されています。その中には、1年中この地域に定住する種もいれば、毎年この地域に渡ってくる種もいます。

定住種

タンチョウ (学名: Grus japonensis)、クマゲラ (学名: Dryocopus martius)、シマフクロウ (学名: Ketupa blakistoni) は、釧路の定住種です。つまり、年中この地域にいます。シマフクロウは、世界で最も大きなフクロウの1つです。このフクロウは、鋭い視力と強力な爪を使って、川や小川で魚を捕まえます。シマフクロウは、北海道の中部と東部に加えて、北海道の北にある樺太と千島列島でも見られます。アイヌ文化において、シマフクロウは、村の神であり守り手として崇められています。

大切な訪問者

オオワシ (学名: Haliaeetus pelagicus) は渡り鳥であり、冬の間にロシア東部からやって来ます。海岸では、マダラを狙うオオワシを見ることができます。コクガン (学名: Branta bernicla) とヒシクイ (学名: Anser fabalis) も渡り鳥であり、春と秋にこの地域を訪れます。オジロワシ (学名: Haliaeetus albicilla) の中には、冬の間釧路地方に渡ってくるものと、1年中ここにとどまるものがいます。